仙台市市民活動サポートセンター通信

■ぱれっと まだ＊これ合併号は、市内の公共施設、
県内外のNPO支援センターなどに送付しています。

ぱれっと まだ＊これ 合併号

2011
10月
No.146

●目次

P2～3　心の復興を目指して活躍するNPO
P4～5　事務用ブース入居団体による震災復興支援活動～その２～
P6　市民活動サポートセンターからのお知らせ

ともに、前へ！仙台

東日本大震災　特別号⑦

9月10日（土）・11日（日）、市民が作るお祭り「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」が開催されました。21回目となる今年のテーマは「音楽の星・地球～ここから～」。多くの方がジャズフェスのパンフレットを手に街中を歩き、大いに楽しんでいた姿は、被災地からの復興のメッセージとなっていたように思います。

地震発生と同時刻の午後2時46分には、各バンドが「A(ラ)」の音を1分間奏でました。会場にいる全ての人々がその音に耳を傾け、「鎮魂・祈り・再生」を願う時を共有しました。「A(ラ)」の音は、昔から心に深く響く音と言われているそうです。

▲定禅寺ストリートジャズフェスティバル
ステージ風景。街に音楽が溢れました。

東日本大震災
～その時～

心の復興を目指して活躍するNPO

震災後、求められる支援のかたちもだんたん変わってきています。時間の経過とともに音楽や絵画、演劇などを楽しむことで、心のケアや日常の回復を求める声も多くなってきたようです。今回はそんな、文化・芸術の分野で支援活動を繰り広げている団体をご紹介します。

芸術家を支え芸術を通した復興支援

NPO法人東北の造形作家を支援する会（SOAT）

▲「そあとの庭」1Fの様子

NPO法人東北の造形作家を支援する会（以下、SOAT）は、東北の地で創作活動を行う作家を支援し、芸術に対する意識向上・文化全般の振興を目的に活動しています。今回はSOATの事務所兼ギャラリーの「ArtGalleryそあとの庭」にて、理事長の藤原久美子さんにお話を伺いました。

●被災しつつも支援活動をスタート

「そあとの庭」は、東北の作家の作品に気軽に触れてもらえるように設置されたSOATの活動拠点です。1Fはカフェ空間、2Fは東北の作家の作品を展示販売するギャラリーになっています。この「そあとの庭」のオープニング展の開催中に震災は起こりました。瓦がずれ落ちたり壁に隙間ができるなど、建物にダメージを受け、展示は中止せざるを得ませんでした。しかし「こういう時に何かをするのが私たちの役目ではないか」という思いから、支援活動を始めました。

●画材支援からワークショップ支援へ

まずは画材を失った画家たちのため、画材を募り届けることにしました。「画材があっても創作できる状況ではないかもしれない。でも、手元にあることで「いつかは」という希望が持てるのではないか」と藤原さんたちは考えたのです。実際に画材を届けた時に「画材も欲しいけど、人材も欲しい」とのニーズがありました。それに応え、東北生活文化学園大学の学生ボランティアとともに、石巻で被災した画家が立ち上げた団体「にじいろクレヨン」の活動を支援しています。

▲理事長の藤原久美子さん「関わってくださるボランティアさん募集中です」

「にじいろクレヨン」のワークショップでは、子どもたちが思い切り身体を動かして遊び、遊び疲れたら様々な画材を使って絵を描くなど自由に表現する事ができます。SOATは、子どもたちの遊び相手や使用する画材の支援を継続して行っています。ある時、つらい体験を打ち明け、でもこのワークショップが楽しみだと話してくれた親子がいました。この活動を通して「一回限りでなく、継続して活動しているから信頼してくれたのだ」と藤原さんは感じたそうです。

●継続的な支援をしていきたい

被災地での活動で、震災によりストレスを抱えてしまっている子どもたちの様子を見た藤原さんは「子どもたちの成長を見守る、息の長い支援をしていきたい」と思っています。また、本当は気仙沼などでも支援活動を行いたいとの思いがあるとのこと。しかし、現状ではドライバーが確保できず石巻までしかカバーできません。広い被災地をカバーし、無理なく長期間の支援活動を行うためには、多くのボランティアが必要です。

活動拠点である「そあとの庭」は、無事修繕を終え、6月から再開。アーティストの発表と交流の場を取り戻す事ができました。国内外のアーティストが「東北を支援したい」と、展示やイベントの予定がどんどん入っているそうです。　（菅野祥子）

NPO法人東北の造形作家を支援する会（SOAT）
【代表者】 理事長　藤原久美子
【連絡先】 〒989-3121　仙台市青葉区郷六笹ノ上5-4
TEL 022-398-8844　FAX　022-398-8845
【E-mail】 head@soat.jp
【ｳｪﾌﾞｻｲﾄ】 http://www.soat.jp/

「アートは生きる力」文化を通して東北の復興を応援

アートリバイバルコネクション東北（通称「あるくと」）

「あるくと」は、大震災で失われた文化・芸術に関するひと・まち・場の再生とアートを通じた東北復興にむけて活動を行っています。３月下旬、俳優の樋渡宏嗣さんが発した「われわれにも何かできることがあるのではないか」という呼びかけに、演劇関係者ら30人ほどが集まったのがきっかけになりました。

●手探りからのスタート

チャリティー公演等積極的に仕掛けたい人、自らが被災し今は何もできないと言う人、この非常時に演劇をするなど不謹慎だと言う人等々、様々な意見がありました。話し合いを重ねるなか、当面は個々の係わりを大切に緩やかなネットワークを保ちながら、表現者のプラットホームとなる場を目指そうということになり、４月初めに「あるくと」が発足しました。趣旨に賛同した個人や劇団は、あわせて100人を超えました。

●被災者に寄り添い、ほっとする時間を提供したい

活動は、震災直後の支援物資運搬から始まり、５月の連休の頃には、子どもたちに紙芝居や絵本の読み聞かせ、ジャグリング等のお楽しみを届けて喜んでもらうことができました。避難所では疲れた身体をほぐす体操を、知的障がい者支援施設には定期的に出向きダンスや美術でリラックスする時間を提供する等、想いはだんだんと形になっていきました。

仮設住宅入居者を支援する「絆支援員」の対話力アップのための講習を依頼されたり、また、文化庁芸術家派遣事業として、保育所、児童館、小中学校に芸術家が訪問する様々なプログラムを企画し、マッチングする仕事も担っています。

▶ 伊藤み弥さん（左）と事務局スタッフ

●ニーズに応え、お役に立つことを届ける

「これらの活動は、「あるくと」の力だけではできませんでした。他団体と協働し連携しながら活動してきた部分が大きいです」と、事務局の伊藤み弥さん。

被災地のニーズを知るために、災害ボランティアセンターにも足を運びました。また、子どもへの支援活動をしている団体と協働し、絵本や遊びを届けたり、沿岸部の被災地へお芝居の巡回公演を行いました。海外とのつながりでは、アメリカ・サンディエゴの子どもたちと東北の子どもたちの、手紙を通じた交流を図る「お手紙大作戦」を展開しました。

現場の視点を丁寧に活動に取り入れ、アーティストと被災者をつなぐ活動を試行錯誤しながら行ってきた様子が伺えます。

「私たちの活動が、皆さんの生きる活力になって欲しいと願っています」と語る伊藤さん。これから復興に向けて、表現者たちの力が必要とされる場が広がることに、確かな手ごたえを感じているようでした。　（葛西淳子）

アートリバイバルコネクション東北（「あるくと」）
【代表者】 樋渡宏嗣
【連絡先】 TEL 080-1667-3105
【E-mail】 info@arct.jp
【ｳｪﾌﾞｻｲﾄ】 http://arct.jp/

▲子どもたちに絵本や遊びを届ける東松島図書館でジャグリング（「こどもとあゆむネットワーク」との協働）

▲沿岸部の子どもたちへ劇場を丸ごとお届け。夢とらっく劇場で「セロ弾きのゴーシュ」を上演（「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」との協働）

▲「アメリカのサンディエゴから東北へはげましのお手紙がきました！」アメリカの子どもたちとのお手紙大作戦

■事務用ブース入居団体による震災復興支援活動 ～その2～

NPO法人
まなびのたね
ネットワーク

専門性を活かして被災地の自立を支援

学校教育支援や社会教育支援を通して「人づくり」と「人とまちをつなぐ」お手伝いをしているNPO法人まなびのたねネットワーク（以下、まなびのたね）。震災後、そのネットワークとコーディネート力をいかして支援活動を展開してきました。その取り組みについて、代表理事の伊勢みゆきさんと副代表理事の田中聡子さんにお話を伺いました。

●自立を引き出す支援が必要

震災から3日後の3月14日、伊勢さんと田中さんは、それぞれが以前から地域コーディネーターとして関わっていた小学校で避難所運営等の支援活動を開始。3月19日からは、当時、孤立していた浦戸諸島（塩釜市）桂島での物資支援も開始しました。震災直前の3月5日に、キャリア教育の一環として、小学生対象の自然体験学習を実施したばかりだった桂島に、伊勢さんと田中さんそれぞれのネットワークを通じて物資の支援を呼び掛け、必要な物資を調達し届けました。桂島では、まなびのたねが企画・実施した仙台市の「地域づくり人材育成講座」の受講生だった縁で、島の活性化に取り組んでいる「一般社団法人浦戸夢の愛ランド」代表の三浦勝治さんが、島内外の情報・人・物資をつないでくれました。4月24日には桂島避難所での復興への決起集会に参加。かき養殖のお手伝いや、夏祭り実行委員会への協力を行い、島の人と島外から来た人との継続的なつながりを意識した支援活動を展開してきました。

▲避難所にて復興への決起大会の1コマ。

緊急支援が一段落した現在、まなびのたねは、次のステップとして、昨年度から計画していた島での交流体験学習プログラムを復興支援と合わせて行うことにしました。桂島を舞台に、子どもたちが一次産業（かき・のりの養殖等）体験や島の人と交流するこのプログラムは、交流人口の増加による島の活性化だけでなく、島の人たちが自立的に事業を展開していくことも目標にしています。

「支援する側も、支援を必要とする側も、その間をつなぐ側も、自立へ向けて今一度、支援についての考え方を整理しなくてはならないと思います。震災から半年が経ち支援のやり方ではなく「あり方」を考える時期なのかも知れません。支援を必要としている人たちが何を必要とし、何が最善か、寄り添う心を大切にしていきたい」と伊勢さんは話します。

●支援の質を左右するコーディネート

震災後の活動としては、前述のほかにも支援のコーディネートを行っています。「一過性の支援ではなく、関係性を作れるところへ支援をしたい」と考えていた新潟の団体と「いろいろ支援団体は来るけれど、やりっぱなしで帰ってしまう」と感じていた石巻の団体と、双方のニーズを把握してつないだことがありました。普段の活動の中で地域や全国の団体と深い関係を築いてきたからこそ、双方が持つ真のニーズをとらえることができたと言えます。

「コーディネーターの役割によって受けられる支援の質が変わります。だからコーディネーターには、支援者に寄り添い、ニーズを引き出すスキルやネットワークが求められると思うのですが、まだまだ世間ではコーディネーターに対する認識が足りないように感じています。」今後の復興の場面でも、コーディネーターの役割がますます重要になってくると言えそうですが、まなびのたねにおいては資金的にも人手的にも厳しいのが現状です。「コーディネート業務自体を助成対象とするような助成金が増えるとよいのですが」と伊勢さんと田中さん。コーディネーターとして、被災地で「人づくり」と「人とまちをつなぐ」活動が続きます。

（太田　貴）

▲タイの農村開発に取り組むメンバーとDEAR（開発教育協会）の上條副代表を桂島へ。三浦さんをご紹介し、島での取り組みを聞き意見交換を行いました。

NPO法人まなびのたねネットワーク
【代表者】 代表理事　伊勢みゆき
【連絡先】 TEL　090-1376-3572
【E-mail】　info@manabinotanenw.com
【ｳｪﾌﾞｻｲﾄ】
http://www2.zundanet.co.jp/manabinotane/

サポセン7階の事務用ブース入居団体による様々な震災復興活動をご紹介します。

NPO法人
生活習慣改善
センター

行動し、人と出会って、支援の輪を広げる

生活習慣改善センターは、「人と地域を元気に」をスローガンに、生活習慣病の予防と早期治療のため食生活・運動の改善に取り組んでいる団体です。理事長の冨澤伊勢雄さんは、地震発生時、ちょうどサポセンの事務用ブースで事務作業中でした。

●食生活を気づかい、食料や物資支援

震災の後、活動をどのように再開しようかと考えていたところ、NPO法人せんだい・みやぎNPOセンターをはじめとするいくつかのNPOが呼びかけ人となって3月19日に開催された、大震災NPO連携ネットワーク会議に出席する機会を得ました。

40団体ほどのNPO・NGOが参加して、物資提供などの支援活動の状況報告や情報共有が行われ、参加した冨澤さんは、自分たちは「復興支援」に特化した団体ではないが、今この時、何かできることがあるかもしれないと、直感されたそうです。

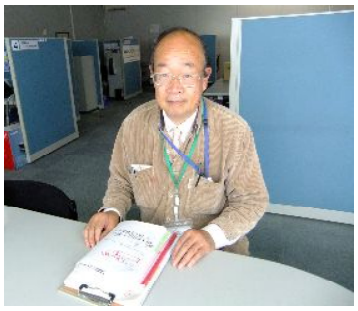
まずは被災地の現状や情報を集めるため、知人が被災していた縁で亘理町に入りました。すると、避難生活者は朝食と夕食は用意されているものの、内容は炭水化物が中心で栄養に偏りがあることがわかりました。そこで震災前から、生活習慣病改善のためのセミナーや料理教室を行っていたつながりを活かし、健康食を扱う企業などから食材の提供を受け物資を届ける活動を開始。

また、同時期に亘理町でボランティア活動を行っていた「マザーテレサの修道院」のシスターたちと出会い、ともに連携し協力しながら避難所での献身的な支援活動をスタートさせたのが3月末でした。

▲冨澤さん（左）と
マザーテレサの修道院のシスターたち

●コミュニティーづくりと生活支援

亘理町での避難所への物資支援活動から、仮設住宅への入居が進むにつれ高齢者の孤独死防止や仮設住宅でのコミュニティーづくりの支援の必要性が求められるようになってきました。そんな折、阪神淡路大震災の後、神戸、芦屋、姫路の仮設住宅の暮らしサポートを16年間続けている団体「神戸暮らしのサポート隊」代表石東直子さんの活動を知りました。サポセンの情報サロンでみつけた一枚のチラシをもとに、ぜひ石東さんのお話を聞きたいと直接交渉し、5月31日の講演会開催にこぎつけたのでした。



▲理事長の冨澤伊勢雄さん

石東さんと一緒に仮設住宅の現状を視察したことをもとに「仮設住宅コミュニティーづくりプログラム」を亘理町に提案。「住まいるカード（入居者名簿）」の自主的な作成を促しながら、自治会組織づくりを提唱するなど、仮設住宅の暮らしサポートに力を注いでいます。

また並行して、被災者の被災状況の聞き取り調査を通して被災者の心のケアを図りながら、震災記録と保存活動を、宮城学院女子大学の学生ボランティアと協働して進めるなど精力的な活動を展開中です。

●復興の主役は町の人々

「人との出会いが力になった」と冨澤さん。「志をもった人々」との多くの出会いが、支援活動を継続していくパワーになったようです。

実際に現場に入り見えてきた課題を一つずつ解決してきましたが、「今後は町の人々が自分たち自身で新生ふるさとを創っていくことが大切。我々はそのお手伝いをしていきたいです。そして、阪神大震災で起こったような孤独死だけは避けなければならないですよ」と語る視線の先には、被災者、特に高齢者や弱い立場の人々への熱い想いが感じられました。　（葛西淳子）

NPO法人生活習慣改善センター
【代表者】 冨澤伊勢雄
【連絡先】 TEL 080-3149-8452
FAX 022-268-4042 [No.114]
【E-mail】 bosco.iseo@yakunitachimasu.com
【ｳｪﾌﾞｻｲﾄ】 http://blog.canpan.info/ssks/

市民活動サポートセンターからのお知らせ

■10月1日（土）から一般利用を再開しました。

〇開館時間　平日／午前9時～午後10時
　　日祝／午前9時～午後6時

〇申込受付の開始日
研修室：ご利用日の3ヶ月前から
セミナーホール：ご利用日の6ヶ月前から
市民活動シアター（全日）：ご利用日の6ヶ月前から
市民活動シアター（区分）：ご利用日の3ヶ月前から
市民活動シアター（時間）：ご利用日の1ヶ月前から

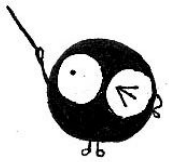
〇受付時間　平日／午前9時～午後9時
　　日祝／午前9時～午後5時
※電話予約は、申込受付の開始日の午後2時から行います。

〇休館日　**毎月第2・第4水曜日、年末年始**
※当該日が祝日にあたる場合は、翌日木曜日が休館日となります。
※年末年始休館は12月29日～翌年1月3日です。

10月の休館日

第2水曜日 10/12

第4水曜日 10/26



サポートセンターの建物は築20年以上経過し、施設内設備の点検や修繕に要する時間が増えてきております。施設内設備の点検、修繕のため、これまで月1回となっていた休館日を2011年9月より**月2回**とさせていただきました。
サポートセンターでは、利用者の皆さまに安心、安全にお使いいただけるよう今後も努めてまいりますので、何卒ご理解ご協力お願い申し上げます。

■10月1日（土）からシニア活動支援センターが再開しました。

〇開館時間　平日／午前10時～午後8時
　　日祝／午前10時～午後6時

〇休館日　毎週水曜日

シニア活動支援センターは、シニア世代の地域・社会参加活動を応援しています。お気軽にお問合わせください。

3月28日から9月30日まで、仙台市市民活動サポートセンターは、市民活動団体・NPO等の復興支援・まちづくり支援の拠点として、復興支援活動に取り組む市民活動団体・NPOにご利用いただきました。「復興支援活動団体利用受付シート」を提出いただいた団体数は、のべ308団体にのぼりました。
これからも、ご要望に応じて、「サポセンかわら版」や「復興支援活動情報ブログ」へ、みなさまの活動情報を掲載いたします。ぜひ、情報をお寄せください。

●復興支援活動情報ブログ
http://blog.canpan.info/fukkou/

●お詫び●

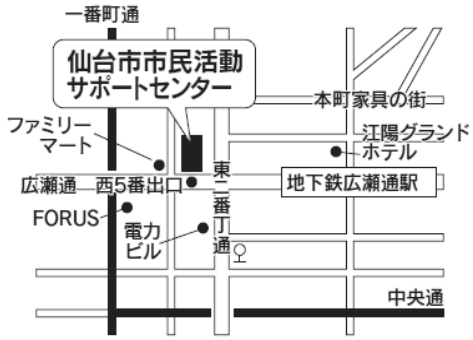
先月発行の「ぱれっと＊まだこれ合併号（No.145）」5ページに掲載した、宮城県学童保育緊急支援プロジェクト のE-mailアドレスが誤っておりました。
関係の皆さま並びに、お問合わせの皆さまにご迷惑をおかけいたしましたことをお詫びし、訂正いたします。

誤　miyagi○gakudou0311@yahoo.co.jp
正　miyagi@gakudou0311@yahoo.co.jp

■案内図

［最寄のバス停］
電力ビル前
商工会議所前

［地下鉄］
広瀬通駅下車、
西5番出口すぐ



■ 編集後記

10月1日より、サポセンの一般利用と、シニア活動支援センターが再開しました。震災復興へ向けて、ますます市民活動・NPOの力が必要とされています。今後も、サポセン・シニア活動支援センター一丸となって震災復興活動の後押しを続けてまいりますのでよろしくお願いします。（スタッフ一同）

発　行：仙台市市民活動サポートセンター
〒980-0811　仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL:022-212-3010　FAX:022-268-4042
ホームページ　http://www.sapo-sen.jp
発 行 日：2011年10月11日
編　　集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
編 集 人：小松州子　菅野祥子　太田貴　葛西淳子

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。［指定管理期間：2010年4月1日～2015年3月31日］

★古紙再生紙を使用★大豆油インキを使用